

Mn1604、Panasonic 6AM6、Varta 4122/4020 または同等品)。新しい電池の接点をコネクタにはめ込み、電池を（底面から先に）デジテスト本体に差し込みます。（後で取り外ししやすいよう、リボンが正しく配置されているか注意してください。）

ステンレス製のシースを元に直し、ネジを軽く締めてください。

使用済みの電池は、適用される環境関連法規に従って廃棄してください。

連絡先
kadashika.jp@gmail.com
URL: <https://www.kadashika.jp/>

装置の説明：

歯髄診断器 は、微弱な電流で歯を刺激することにより、生きた歯を特定する携帯型デジタル診断装置です。生きた歯は、不快感を感じるはるか以前に、この穏やかな刺激を感知するはずです。操作者がボタンを押すと、刺激の強さが自動的に徐々に強くなります。

使用目的／適応：

歯髄の生存性を判定するための補助として使用します。

禁忌：

ペースメーカーを装着している患者には本装置を使用しないでください。

警告：本機器を改造しないでください。改造は安全基準に違反し、患者および操作者の安全を脅かす恐れがあります。いかなる改造も保証の対象外となります。心臓ペースメーカーやモニタリング装置が使用されている環境では使用しないでください。

有害事象：

報告例はありません。

同梱内容：

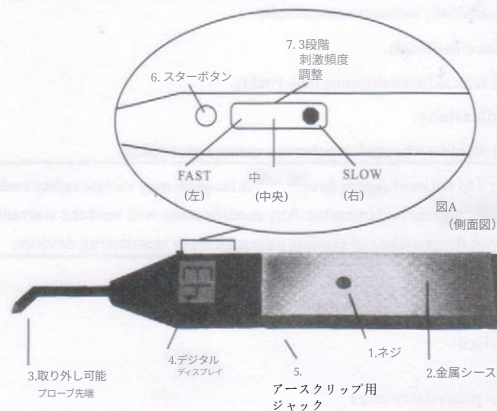
同梱内容：

- デジテスト歯髄活力検査器
- オートクレープ処理可能な歯型2個
- 9ボルト高出力アルカリ電池（本体に予め装着済み）
- リップ接地線
- 取扱説明書
- 保証登録カード
- プラスチック製収納ケース

洗浄および感染管理：

2本の歯用ブローブ、リップグラウンド、およびそのケーブルは、一般的な蒸気オートクレープで滅菌可能です（重力置换方式の場合、132～135℃で15分間、プレバキュームサイクルの場合は4分間）。装置本体はオートクレープにかけないでください。本体は湿らせた布で洗浄し、低温滅菌剤で拭き取ってください。オートクレープ処理だけでは、付着した汚れが完全に除去されない場合があります。十分な滅菌を確保するため、オートクレープ処理可能な部品は（処理前に）温かい石鹸水で洗浄してください。

テスト中に赤い数字が表示されない場合、または小さな赤い小数点 (.) が表示された場合は、電池を交換してください。(注：電池の残量が十分であっても、スタートボタンから指を離すとドットが表示されます。) 本装置を長期間使用しない場合は、電池を取り外してください。



図A (側面図)

歯髄診断器の使用方法

1. 検査対象の歯をきれいにし、乾かしてください。
2. 図Aに示すように、プローブ(3)を電源ユニットに挿入します。歯とプローブの接触を良くするために、金属製の先端にプロフィバーストまたは歯磨き粉を少量塗布してください。プローブはステンレス製で、滅菌可能です(乾熱による滅菌を除く)。
3. 手袋を着用している場合は、図Bに示すように、オプションのオートクレーブ対応患者用アース線をユニットの側面に差し込んでください。アース線を患者の唇の上に置き、口腔粘膜としっかりと接触するようにします(あるいは、患者がアース線を手にしっかりと握ってもかまいません)。手袋を着用していない場合、施術者が本体の金属製シースに接触し、空いている手で患者の頬やあごに触れるのであれば、アース線を使用する必要はありません。

プラスチックケースを開けないでください。内部にはユーザーが修理可能な部品はありません。内部の修理は、Parkellの認定担当者によってのみ行われるものとします。

ヒント：手袋を着用している場合でも、検査中に歯科医師が患者に金属シースに指を置いたままにするよう指示すれば、患者アースは不要です。これにより必要な回路が形成されます。何かを感じたらすぐに指を離すよう患者に指示すれば、生体反応が確認された時点で刺激は直ちに停止します。

4. プローブを歯唇面または舌面の中央に当てます。軟組織や、クラウン、アマルガム、コンポジットなどの修復物は避けてください。
5. 装置を起動するには、スタートボタン(6)を押します。ディスプレイが点灯し、デジタル表示により、歯に徐々に強くなる穏やかなパルス刺激が印加されていることが示されます。増加率は、操作者の技法に合わせて3段階スイッチ(7)で調整可能です。
6. 患者が刺激を感じたら、ボタンを離してください。刺激は直ちに停止します。ディスプレイはフリーズし、最終測定値を約5秒間保持するため、記録することができます。その後、装置は自動的に電源が切れます。最大刺激に対応する数値は64です。最大刺激(64)で感覚が認められない場合は、その歯が非活歯であることを示唆しています。この結論は、熱試験によって確認する必要があります。ボタンを押し続けると、装置は64までカウントアップし、一定時間その数値を維持した後、ゼロにリセットされて再びカウントを開始します。ボタンを押すたびに、装置はゼロにリセットされます。

臨床上の所見：

生歯における「正常」な閾値というものはありません。したがって、「64」未満のデジタル表示(刺激強度)には、直接的な診断的価値はありません。一般に、後歯は前歯よりも強い刺激を必要としますが、閾値は患者の年齢、歯質、病状などの要因によっても影響を受ける可能性があります。一般的に、同顎の対合歯および反対顎の対合歯は、同様の閾値を示します。

注意：本電源ユニットには高度な電子回路が組み込まれています。湿気にさらさないでください。滅菌処理を行わないでください。電源ユニットを落下させたり、物理的な衝撃を与えたりしないでください。本機を保管する場合や長期間使用しない場合は、電池を取り外してください。

電池の交換方法：

ネジ(1)を取り外します。ステンレス製のカバー(2)を持ち上げて外します。リボンをそっと引っ張って、本体から電池を取り外します。電池コネクタを外し、電池を廃棄してください。

長寿命・高出力の9V電池のみを使用してください(Radio Shack 23-553, Duracell)